

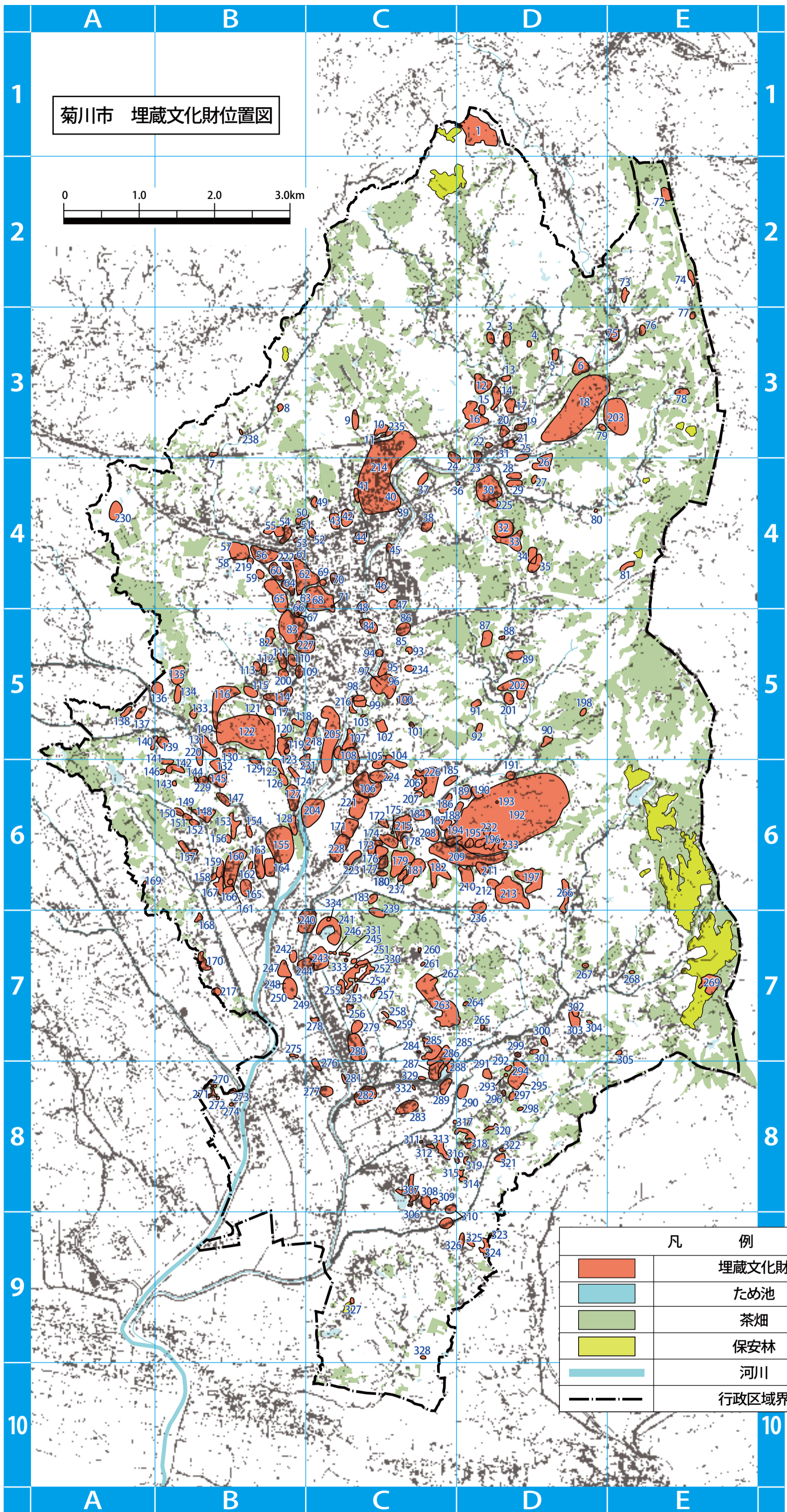
## 2-(4) 埋蔵文化財

番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名
1	城郭	ひつるぎさんとりで 火剣山砦	33	窯跡	さらやまこようしぐん 皿山古窯跡群	65	散布地	くりばやし いせき 栗林遺跡
2	集落	いのうえだん いせき 井上段遺跡	34	集落	ちよじややしき いせき 長者屋敷遺跡	66	散布地	はちまん いせき 八幡遺跡
3	散布地	むこうばやし いせき 向林遺跡	35	散布地	ちよじやばらい いせき 長者原遺跡	67	古墳	はちまんこふん 八幡古墳
4	城館	さんぞくやしき 山賊屋敷	36	古墳	ほうみょうじこふん 法明寺古墳	68	散布地	かしまうちあげ いせき 鹿島・打上遺跡
5	散布地	ろくたんだい いせき 六反田遺跡	37	散布地	やたべい いせき 矢田部遺跡	69	古墳	だいたくじこふん 大徳寺古墳
6	散布地	あきつねだん いせき 秋常段遺跡	38	散布地	はちおうじ いせき 八王子遺跡	70	散布地	まえだ いせき 前田遺跡
7	散布地	さわだ いせき 沢田遺跡	39	古墳	しものだんこふん 下ノ段古墳	71	古墳	かしまこふん 鹿島古墳
8	集落	すみやまがやしき 炭山ヶ谷遺跡	40	散布地	しものだん いせき 下ノ段遺跡	72	散布地	おちいうえはらい いせき 落井上原遺跡
9	散布地	おくのいけ いせき 奥ノ池遺跡	41	散布地	ちよせんじ いせき 長泉寺遺跡	73	散布地	やまなか いせき 山中遺跡
10	寺院跡	ちよかいじやくしどうあといせき 潮海寺薬師堂跡遺跡	42	条里	やなぎつばい いせき 柳坪遺跡	74	散布地	ろっぽんまつ いせき 六本松Ⅱ遺跡
11	窯跡	ちよかいじやくしどうがよし 潮海寺薬師堂瓦窯跡	43	散布地	ひがしながれすない いせき 東流砂遺跡	75	散布地	てらだん いせき 寺段遺跡
12	集落	くらただん いせき 蔵田段遺跡	44	条里	まえだつばい いせき 前田坪遺跡	76	散布地	ひがしみね いせき 東峯遺跡
13	散布地	ごれいじんじや いせき 御霊神社遺跡	45	散布地	やまだ いせき 山田遺跡	77	散布地	ろっぽんまつ いせき 六本松Ⅰ遺跡
14	集落	ぜんぶくじ いせき 善福寺遺跡	46	散布地	なかじまい いせき 仲島遺跡	78	散布地	ひきた いせき ひきた遺跡
15	散布地	とのまえ いせき 殿ノ前遺跡	47	経塚	しまきよつかい いせき 島経塚遺跡	79	散布地	たるがやしき 樽ヶ谷遺跡
16	城郭	とみたじょう 富田城	48	散布地	ごんさえもん いせき 権左衛門遺跡	80	窯跡	ごきめんやこようし 御兔谷古窯跡
17	散布地	にしはら ばらい いせき 西原シデト原遺跡	49	横穴	にし の や おうけつぐん 西ノ谷横穴群	81	散布地	におうつじ いせき 仁王辻遺跡
18	集落	せんだがはらい いせき 千駄ヶ原遺跡	50	横穴	しのが や おうけつぐん 篠ヶ谷横穴群	82	散布地	いなりやま だいてりゅう 井成山(大頭龍)
19	散布地	にしみね いせき 西峯Ⅰ遺跡	51	古墳	てんばくうらこふん 天白浦古墳		散布地	いせき 遺跡
20	散布地	にしみね いせき 西峯Ⅱ遺跡	52	散布地	はつとだ いせき 八斗田遺跡	83	集落跡	しらいゆ いせき 白岩遺跡
21	古墳	うえのだんこふん 上ノ段古墳	53	横穴	にしみやうらおうけつぐん 西宮浦横穴群	84	散布地	しまい いせき 島遺跡
22	散布地	さいぶくじ いせき 西福寺遺跡	54	横穴	おおぶらが や おうけつぐん 大淵ヶ谷横穴群	85	横穴	しもほんじよ おうけつぐん 下本所A横穴群
23	散布地	よしざわだん いせき 吉沢段遺跡	55	横穴	やまもとよこあなぐん 山本横穴群	86	横穴	しもほんじよ おうけつぐん 下本所B横穴群
24	散布地	どうのまえ いせき 堂ノ前遺跡	56	散布地	ほつた いせき 堀田遺跡	87	散布地	はらい いせき アラコ原遺跡
25	散布地	かいとだ いせき 海戸田遺跡	57	城郭	ほつたじょうし 堀田城跡	88	窯跡	ぼうの や こようし 坊ノ谷古窯跡
26	集落	あかやしき 赤谷遺跡	58	散布地	ごんげんばらい いせき 権現原遺跡	89	散布地	まつぎ いせき 松木遺跡
27	散布地	ねぎやしき 衾宜屋敷遺跡	59	散布地	ほつたやまい いせき 堀田山遺跡	90	散布地	のうの はらい いせき 能ノ原遺跡
28	散布地	ごきゆう いせき 後久遺跡	60	集落	こしまえ いせき 腰前遺跡	91	散布地	かんのうばらい いせき 神尾原遺跡
29	集落	いしばたけ いせき 石畑遺跡	61	古墳	たかだ がはらこふんぐん 高田ヶ原古墳群	92	散布地	まつたけやしき 松竹谷遺跡
30	集落	はらだん いせき 原段遺跡	62	集落跡	たかだ がはらい いせき 高田ヶ原遺跡	93	横穴	ふるた おうけつぐん 古田横穴群
31	散布地	うえのだん いせき 上ノ段遺跡	63	古墳	たかだ がはらみなみこふんぐん 高田ヶ原南古墳群	94	散布地	あらい いせき 新井遺跡
32	散布地	うえの はらい いせき 上の原遺跡	64	散布地	まめじり いせき 豆尻遺跡	95	集落	よつえだ いせき 四ツ枝遺跡

番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名
96	集落	しもだ いせき 下田遺跡	129	散布地	よりざね いせき 頼実遺跡	162	散布地	だんつぼ いせき 段坪 I 遺跡
97	横穴	しもだ おうけつぐん 下田横穴群	130	散布地	つじの まえ いせき 辻ノ前遺跡	163	散布地	ふるかわ いせき 古川遺跡
98	散布地	おいで いせき 小出遺跡	131	集落	みかどまゑ いせき 御門前遺跡	164	居館	たかだ おお や しき いせき 高田大屋敷遺跡
99	城郭	うえの しろとりでじょうかん 上ノ城岩城館	132	集落	きぶね いせき 木舟遺跡	165	散布地	だんつぼ いせき 段坪 II 遺跡
100	散布地	えのした いせき 榎下遺跡	133	散布地	みかど いせき 御門遺跡	166	散布地	だんびら お いせき 段平尾 III 遺跡
101	横穴	ふかがわ おうけつぐん 深川横穴群	134	散布地	きぞう が や いせき 喜蔵ヶ谷遺跡	167	散布地	だんびら お いせき 段平尾 I 遺跡
102	条里	いちの つぼ いせき 一ノ坪遺跡	135	散布地	たけの や いせき 竹ノ谷遺跡	168	横穴	いなか べか みやま おうけつぐん 稲荷部上山横穴群
103	横穴	おいで おうけつぐん 小出横穴群	136	条里	しもの つぼ いせき 下の坪遺跡	169	横穴	からき が や おうけつぐん 枯木ヶ谷横穴群
104	古墳	ふじや こふんぐん 藤谷古墳群	137	条里	もりやなぎ つぼ いせき 森柳坪遺跡	170	横穴	いなか べい なぎ おうけつぐん 稲荷部稲木横穴群
105	横穴	ふじや おうけつぐん 藤谷横穴群	138	横穴	くりはら おうけつぐん 栗原横穴群	171	集落	つちはし いせき 土橋遺跡
106	集落	ごりょうしよ いせき 御領所遺跡	139	集落	もりまゑ いせき 森前遺跡	172	散布地	しい が した いせき 椎ヶ下遺跡
107	散布地	か も じんじや いせき 加茂神社遺跡	140	横穴	もりまゑ おうけつぐん 森前横穴群	173	集落	ひがしよ こち にし ばら いせき 東横地西原遺跡
108	集落	こがわ ばた いせき 小川端遺跡	141	集落	もりまゑ そと や しき いせき 森前外屋敷遺跡	174	集落	お や しき だん いせき 御屋敷段遺跡
109	散布地	しらいわ した いせき 白岩下遺跡	142	散布地	しょうみん じ ばら いせき 正眠寺原遺跡	175	古墳	だんよ こち こふん 段横地古墳
110	散布地	しらいわ ひがし ば ま いせき 白岩東狭間遺跡	143	横穴	まんどころ おうけつ ぐん 政所横穴 F 群	176	集落	にしや ま いせき 西山遺跡
111	散布地	しらいわ 西 狭 ま いせき 白岩西狭間遺跡	144	横穴	まんどころ おうけつ ぐん 政所横穴 A 群	177	集落	くぼ の や いせき 久保ノ谷遺跡
112	散布地	しらいわ だん いせき 白岩段 II 遺跡	145	集落	まんどころ もと や しき いせき 政所本屋敷遺跡	178	散布地	だん や しき いせき 段屋敷遺跡
113	散布地	しらいわ だん いせき 白岩段 I 遺跡	146	横穴	かんのん やま ごうふん 観音山 1 号墳	179	集落	みさわ にし ばら いせき 三沢西原遺跡
114	散布地	にしぶくろ いせき 西袋遺跡	147	散布地	まんどころ いせき 政所遺跡	180	散布地	さんの うら いせき 山王裏遺跡
115	散布地	ひろはら いせき 広原遺跡	148	横穴	ひがしひら お おうけつぐん 東平尾横穴群	181	散布地	こうがく じ ばら いせき 興嶽寺原遺跡
116	横穴	やまだ いせき 山田遺跡	149	古墳	みずあらい ごうふん 水洗 1 号墳	182	散布地	さるた や いせき 猿田谷遺跡
117	散布地	いちが はら いせき 市ヶ原遺跡	150	散布地	ひら お いせき 平尾遺跡	183	散布地	どうや ま いせき 堂山遺跡
118	散布地	ながいけ きた いせき 長池北遺跡	151	散布地	みずあらい いせき 水洗遺跡	184	散布地	たなか いせき 田中遺跡
119	集落	ながいけ いせき 長池遺跡	152	散布地	ひがしひら お いせき 東平尾遺跡	185	散布地	おおひら いせき 大平遺跡
120	横穴	ながいけ おうけつぐん 長池横穴群	153	横穴	まんどころ おうけつぐん 政所横穴群	186	散布地	すぎの や いせき 杉の谷遺跡
121	古墳	すぎもり こふんぐん 杉森古墳群	154	散布地	おくぐり きた いせき 奥繰北遺跡	187	散布地	すぎの や ばし いせき 杉の谷橋遺跡
122	横穴	すぎもり おうけつぐん 杉森横穴群	155	散布地	みみがわ いせき 耳川遺跡	188	散布地	みやうたい いせき 明体遺跡
123	古墳	ながいけ こふんぐん 長池古墳群	156	古墳	ひら お はちま ん やま こふん 平尾八幡山古墳	189	散布地	みうち ばら いせき 身打原遺跡
124	散布地	ながいけ みなみ いせき 長池南遺跡	157	横穴	ひら お の ぞえ おうけつぐん 平尾野添横穴群	190	散布地	やまわき いせき 山脇遺跡
125	散布地	はらや ま いせき 原山遺跡	158	散布地	まつや ま いせき 松山遺跡	191	散布地	しばら いせき 芝原遺跡
126	散布地	すけく ろう いせき 助九郎遺跡	159	散布地	だんびら お いせき 段平尾 IV 遺跡	192	城郭	よこち じょう 横地城
127	散布地	つきお か いせき 月岡 II 遺跡	160	散布地	だんびら お いせき 段平尾 II 遺跡	193	古墳	こうしんづか こふん 庚申塚古墳
128	散布地	つきお か いせき 月岡 I 遺跡	161	経塚	やが けきょうづか いせき 矢掛経塚遺跡	194	居館	との が や いせき 殿ヶ谷遺跡



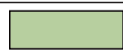


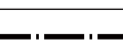
番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名
195	散布地	ふじまるやかたいせき 藤丸館遺跡	227	散布地	かたぶきいせき 方吹遺跡	255	横穴墓	うどうよこあなぐん 宇洞横穴群
196	横穴	ぶえぼらおうけつぐん 武衛原横穴群	228	散布地	にしのかいせき 西軒遺跡	256	古墳	こうんじてらやまこふん 好運寺山古墳
197	城郭	あかみねやしきいせき 赤峯屋敷遺跡	229	散布地	まんどころやまもといせき 政所山本遺跡	257	横穴墓	ひがしぐみよこあなぐん 東組横穴群
198	窯跡	ぎよたがやこようし 行田ヶ谷古窯跡	230	散布地	みなみのやいせき 南ノ谷遺跡	258	横穴墓	いのきかいとよあなぐん 井ノ木海戸横穴群
199	古墳	ほうねんづかこふん 法然塚古墳	231	散布地	ながいけいせき 長池Ⅱ遺跡	259	横穴墓	たなぐさよこあなぐん 棚草横穴群
200	集落	さいふくじにしいせき 西福寺西遺跡	232	散布地	ぶえぼらいせき 武衛原遺跡	260	横穴墓	おくのやよこあなぐん 奥之谷横穴群
201	集落	きといせき 里遺跡	233	散布地	じげんじいせき 慈眼寺遺跡	261	横穴墓	ほしのやよこあなぐん 星谷横穴群
202	散布地	だんばらいせき 段原遺跡	234	横穴	しらさかおうけつぐん 白坂横穴群	262	集落跡	きたのやいせき 北之谷遺跡
203	散布地	いけがやいせき 池ヶ谷遺跡	235	散布地	どうばいせき 堂橋遺跡	263	散布地 ・城館跡	たなぐさしるあと 棚草城跡
204	散布地	わかみやいせき 若宮遺跡	236	横穴	きたのやおうけつぐん 北の谷横穴群	264	横穴墓	とんのやよこあなぐん 殿之谷横穴群
205	散布地	みやのにしいせき 宮ノ西遺跡	237	散布地	みさわとのがやいせき 三沢殿ヶ谷遺跡	265	横穴墓	さるわたりよこあなぐん 猿渡横穴群
206	横穴	うどうおうけつきたぐん 宇藤横穴北群	238	散布地	あそがやいせき 安曾ヶ谷遺跡	266	横穴墓	おおやぶよこあなぐん 大藪横穴群
207	横穴	うどうおうけつみなみぐん 宇藤横穴南群	239	横穴墓	こずがやよこあなぐん 小巢ヶ谷横穴群	267	横穴墓	ふるやよこあなぐん 古谷横穴群
208	散布地	よこちじょうにしいせき 横地城西遺跡	246	横穴墓	ずいせんがやよこあなぐん 瑞泉ヶ谷横穴群	268	古墳	ふるやこふん 古谷古墳
209	散布地	よこちじょうかいせきぐん 横地城下遺跡群	247	散布地	ししもりいせき 猪森遺跡	269	散布地	かわかみばらいせき 川上原遺跡
210	散布地	えんめいだんいせき 延命段遺跡	248	古墳	かみひらかわおおつか 上平川大塚1号墳	270	古墳	ちやうすやまこふん 茶臼山古墳
211	集落	いへいせき 伊平遺跡	249	古墳	かみひらかわおおつか 上平川大塚2号墳	271	横穴墓	おおいしよこあなぐん 大石横穴群
212	城郭	こウノツル <sup>とりで</sup> 砦	240	散布地 ・集落跡	かみひらかわいせき 上平川遺跡	272	散布地	おおいしいせき 大石遺跡
213	城郭	こたろうとりで 小太郎砦	241	横穴墓	おおじかよこあなぐん 大鹿横穴群	273	横穴墓	ししがはなとりでよこあなぐん 獅子ヶ鼻砦横穴群
214	散布地	ちやうかいじもんぜんまちいせきぐん 潮海寺門前町遺跡群	242	散布地 ・集落跡	しろむかいいいせき 城向遺跡	274	横穴墓	こうしやうじよこあなぐん 興勝寺横穴群
215	散布地	ひがしがわいせき 東側遺跡	243	城館跡	つつみしるあと 堤城跡	275	散布地	かんしよいせき 官司遺跡
216	散布地	やまもといせき 山本遺跡	244	散布地	つつみいせき 堤遺跡	276	城館跡	くろだだいかんやしきあと 黒田代官屋敷跡
217	城郭	やつがやいせき 八ツ谷遺跡	245	横穴墓	しみどうよこあなぐん 志味堂横穴群	277	散布地 ・集落跡	ひがしみねだいいせき 東嶺田遺跡
218	散布地	ながいけはしいせき 長池橋遺跡	246	横穴墓	ずいせんがやよこあなぐん 瑞泉ヶ谷横穴群	278	散布地	しもひらかわろくたんだいせき 下平川六反田遺跡
219	古墳	しやうほうじこふん 正法寺古墳	247	散布地	ししもりいせき 猪森遺跡	279	散布地	かわたいせき 川田遺跡
220	散布地	ろくしよいせき 六所遺跡	248	古墳	かみひらかわおおつか 上平川大塚1号墳	280	散布地 ・集落跡	ひがしはらだいいせき 東原田遺跡
221	集落	りんこうじいせき 林光寺遺跡	249	古墳	かみひらかわおおつか 上平川大塚2号墳	281	古墳	あきひじんじやこふん 朝日神社古墳
222	散布地	ほったひがしいせき 堀田東遺跡	250	散布地	かみひらかわまんどころいせき 上平川政所遺跡	282	集落跡	みねだいいせき 嶺田遺跡
223	散布地	てらやしきいせき 寺屋敷遺跡	251	古墳	ずいせんじこふん 瑞泉寺2号墳	283	散布地	あかつちまんどころいせき 赤土政所遺跡
224	散布地	よねやまやしきいせき 米山屋敷遺跡	252	横穴墓	はちまんがやよこあなぐん 八幡ヶ谷横穴群	284	古墳	かすがじんじやこふん 春日神社古墳
225	散布地	ごまだんいせき 胡麻段遺跡	253	散布地	しもひらかわはちまんがやいせき 下平川八幡谷遺跡	285	散布地 ・横穴墓	かすがやまよこあなぐん 春日山横穴群
226	集落	うどういせきぐん 宇藤遺跡群	254	散布地	しもひらかわはちまんじんじやにし 下平川八幡神社西 遺跡	286	散布地 ・横穴墓	かまだゆうよこあなぐん 釜太夫横穴群
						287	散布地	かまだゆういせき 釜太夫遺跡

番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名	番号	種別	遺跡名
288	散布地	あかつちうえん だん いせき 赤土上ノ段遺跡	304	古墳	かんどやまこふん 漢人山古墳	320	古墳	てら やこふんぐん 寺の谷古墳群
289	散布地	あかつちしたんだいせき 赤土四反田遺跡	305	その他の墓	しょうりんじぼちいせき 正林寺墓地遺跡	321	横穴墓	もちだよこあなぐん 糯田横穴群
290	集落跡	ほつちういせき 八丁遺跡	306	散布地	まえおかいせき 前岡遺跡	322	散布地	もちだ いせきぐん 糯田遺跡群
291	集落跡	えのきだ いせき 榎田遺跡	307	横穴墓	たかねやまよこあなぐん 高根山横穴群	323	古墳	あまが やこふん 天ヶ谷古墳
292	散布地 ・集落跡	みや まえいせき 宮ノ前遺跡	308	城館跡	たかはししろあと 高橋城跡	324	城館跡	あまが やしろあと 天ヶ谷城跡
293	古墳	みやしたこふんぐん 宮下古墳群	309	横穴墓	ひらくみやよこあなぐん 平組横穴群	325	横穴墓	さくりやよこあなぐん 佐栗谷横穴群
294	城館跡	かわかみしろあと 川上城跡	310	集落跡	たかはしいせき 高橋遺跡 (A・B)	326	散布地	さくりや いせき 佐栗谷遺跡
295	古墳	たいの やこふん 代之谷古墳	311	横穴墓	こくぞうどうよこあなぐん 虚空蔵堂横穴群	327	横穴墓	にしむらよこあなぐん 西村横穴群
296	その他の墓	さくべえやしきぼちいせき 作兵衛屋敷墓地遺跡	312	横穴墓	こくぞうよこあなぐん 虚空蔵横穴群	328	生産遺跡	にの やこよういせき 二ノ谷古窯遺跡
297	横穴墓	みやしたよこあなぐん 宮下横穴群	313	横穴墓	いけが やよこあなぐん 池ヶ谷横穴群	329	散布地	ひづめいせき 樋詰遺跡
298	古墳	おなくぼこふん 舟久保古墳	314	横穴墓	み いけよこあなぐん 三ツ池横穴群	330	古墳	はちまんが やこふん 八幡ヶ谷古墳
299	散布地 ・集落跡	おおた やいせき 太田ノ谷遺跡	315	古墳	み いけこふんぐん 三ツ池古墳群	331	古墳	しみどうこふんぐん 志味堂古墳群
300	集落跡	いちんば いせき 市場B遺跡	316	横穴墓	ごちよういけよこあなぐん 五丁池横穴群	332	散布地	いっただいせき 一反田遺跡
301	集落跡	いちんば いせき 市場A遺跡	317	横穴墓	じぞうどうよこあなぐん 地藏堂横穴群	333	古墳	ずいせんじ ごうふん 瑞泉寺1号墳
302	散布地	こがさきいせき 子ヶ崎遺跡	318	横穴墓	てら やよこあなぐん 寺の谷横穴群	334	古墳	おおじかこふんぐん 大鹿古墳群
303	散布地 ・集落跡	やたいせき 谷田遺跡	319	横穴墓	いけの やよこあなぐん 池之谷横穴群			



菊川市 埋蔵文化財位置図

0 1.0 2.0 3.0km

凡 例	
	埋蔵文化財
	ため池
	茶畑
	保安林
	河川
	行政区域界

## 2-(5) 地名

旧小笠町には、「小笠町地名語源解説 総記篇・北地区篇、東地区編、南地区編」（編集：小笠町郷土研究会民俗部、発行：小笠町教育委員会）という、地名の由来等をまとめた冊子がある。旧菊川町には、同様の資料がないため、文化資源の保存という観点から、いずれ調査を実施することが望ましい。

### □ 地名の語源説明（旧小笠町）

地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
遠江国	トートーミノクニ	<ul style="list-style-type: none"> <li>大井川以西愛知県境までの区域につけられた国名。</li> <li>「止保太不美」と訓じ、トーツアワウミ(遠淡海)の約言といわれている。遠淡海というのは「遠方にある淡水湖」というのであって浜名湖を指している。</li> <li>これは近くの淡水湖、即ち琵琶湖に対する名称で、遠淡海を遠江に書き変えて止保太不美と読むようになったものといわれている。</li> </ul>	—
小笠山	オガサヤマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>菅笠を伏せたような形に見えるところより名付けられたものだろうといわれている。</li> </ul>	— (地図外)
牧の原	マキノハラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>マキの字のつく地名は全国(特に中部地方)に多いといわれる。</li> <li>この地名は牧場に関係するものと思う。地名語源辞典には「静岡県榛原郡金谷町東南部の台地。古くから牧場であったからその名が出た。明治2年徳川の武士が農夫となって開墾した」と説明されている。</li> <li>また、牧の原は布引原(ヌノビキバラ)とも呼ばれている。これは一面布を張り詰めたように平らになっている所ということから呼ばれるようになった地名か、または鬼女が一夜にして布を引いて作った原だという伝説もある。</li> </ul>	—
菊川	キクガワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>淡が嶽の東麓金谷町の西北山間にある部落名で、昔は宿であった。この本市の駅(宿)名は承久3年(1221年)7月10日に東国へ下向の際に中御門入道前中納言宗行卿が旅館に泊まったが夜中眠れず法華経を誦じたが、なお眠れなかったので、ついに起き出て旅宿の柱に詩を刻んだという有名な記録がある。</li> <li>または、菊石の産地であるからともいわれている。</li> </ul>	— (河川名)
牛渕川	ウシブチガワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧菊川町牛渕地区に源を発して南流し、小笠町地内で黒沢川・丹野川を合わせ、西が崎付近で「菊川」に合流している。</li> <li>ウシブチのウシは大人(ウシ・オトド)仙人の意であるところから、竜神の住む渕ということからウシブチの地名が起こり、ここから流れる川をウシブチガワと呼んだのであろう。</li> </ul>	— (河川名)
佐東川	サヅカガワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧大東町佐東地域から流れ出て、生仁場付近で「菊川」に合流している小川。</li> <li>佐東は昔は狭東と書いていた。サは狭い、小さいの意。ツカはアイヌ語では突き出る意味を持っている。または、塚で小丘の意。したがってサヅカは、山の支脈<small>しみやく</small>が突き出てできている地域。あるいは小丘の多い地域というところから起こった名前かもしれない。</li> </ul>	— (河川名)

地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
嶺田	ミネダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>富士山の嶺が水田に映って見えるところより、この名が起ったであろうとは郷里雑記の説明であるが、しかし富士の嶺が見える場所は堂山付近に行かなければならないので、他の意味からではなかろうか。</li> <li>ミネには山の嶺という意味の他に田の畝(ウネ)という意味があるということから、水田に植えられた稲が畝を作って見えるところから呼ばれるようになった地名ではなかろうか。</li> <li>嶺田は南北に延びる三つの部落東嶺田・中嶺田・西嶺田と南部の堂山とに分かれている。</li> </ul>	B-8
河東	カトー	<ul style="list-style-type: none"> <li>河東山は石山であったために「堅尾山」(カタオヤマ)と呼ばれていたが、後になってカトーヤマと発音されるようになって「河東山」と書き改められるようになり、この山名より起ったといわれる。</li> </ul>	C-9
高橋	タカハシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>古い頃には正林寺の門前に古い松があり、ここまで海水が来ており、船をつないだという記録が残っているところからみて、この付近には高い橋が架けられていたであろうと思われる。それが高橋という地名になったのではなかろうか。</li> </ul>	D-8
丹野	タンノ	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹野の丹は赤に通じ、赤い土のある所という意であろうとの説もあるし、また丹野の丹は段に通じ、段野が丹野に書き変えられたものであろうかともいわれ、また一説には谷の意であるから、谷のある所ということから丹野の地名が起ったのだらうともいわれている。</li> </ul>	D-6
赤土	アカツチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>この地方の田の水は鉄分を含んでいるので、汲みあげて置くと、空気中の酸素と化合して赤茶色の汚れた水になるというところから赤土の地名が生まれたのであろうかといわれている。</li> <li>しかし他の一説には、水のことを仏語で關伽(アカ)ともいい、方言でもアカということから水の溜っている土地を意味する語から赤土の地名が起ったであろうともいわれている。</li> </ul>	E-7
猿渡	サルワタリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>サルワタリというのは崖下の川を渡る所という意味があり、またサルには筑・湿原の意味があるが、サワタリ(狭い渡り場)というところからこの地名が起ったと考えられる。</li> </ul>	D-7
目木	モッキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>目(メ)の語源は見(ミ)であり、見(ミエ)の約であるか、または目印の木がよく見える所という意味から目木と書かれ、「モッキ」あるいは「メキ」とも呼ばれるようになったかと思われる。</li> </ul>	D-7
棚草	タナクサ	<ul style="list-style-type: none"> <li>タナは段状の土地を意味することから起った地名と考えられる。</li> </ul>	C-7
堂山新田	ドーヤマシンデン	<ul style="list-style-type: none"> <li>堂山の南側にある集落名。</li> <li>新田という名前のつく地名は静岡県に80ほどある。</li> <li>堂山にある新開地という意味であろう。</li> </ul>	C-9
川上	カワカミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤土川の源をなすというところより呼ばれ出した地名であろうといわれているが、川はゴーゴーと音をたてて流れる擬音語だといわれている。このような川は急流であるから洪水が氾濫しやすく、農民には恐れられていたのであろう。</li> <li>またカミは長官(カミ)・上(カミ)・神(カミ)の義を有しており、至上の力を持つ川という義から生じた地名かもしれない。</li> </ul>	E-6

地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
大石	オーイシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>西嶺田の対岸の部落で、「菊川」の右岸に位置する部落。</li> <li>イシは岩を意味し、岩は神聖なるものとして取り扱われていた。その岩の大きなもの、すなわち北にある山を象徴としている部落ということから、この地名が生まれたものと思われる。</li> </ul>	B-8
平川	ヒラカワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近では牛淵川に堤防が設けられているが、菊川改修工事以前は無堤防河川であった。</li> <li>平地に川が流れていることより、この名前が起こったのではないかとも思われるが、また一説には平はたいらかの意とは全然反対の「崖とか傾斜地」とかの意であるという。従って「平川」は崖の有る川が流れている地域ということから起こったものであろうかともいわれている。</li> </ul>	B-7
寺地	テラジ	<ul style="list-style-type: none"> <li>長安寺の東、方地部落の北に当たる地域。</li> <li>昔は医王寺という寺があったが、明治初年に廃寺となった。その寺のあった跡地であるので、この地名がある。</li> </ul>	B-8
袋	フクロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の小笠支所の西側に当たる地域の地名。牛淵川の蛇行のためにできた袋状の土地の名前である。</li> </ul>	C-8
下海戸	シモガイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>江口の南で、水洗の東に当たる地域。海戸の中でも東側(下)にあるので下海戸と呼ばれている。</li> <li>海戸には、街道の意味がある。徳川家康が御鷹狩りに使用した道路ということから、この地方を街道と呼んでいたのが、カイトと転じ、後には海戸と当て字されるようになったのではないかと。</li> <li>また、この付近に塩田(ショダ)と呼ぶ地名があることから、この地域は海であったところより海戸の地名が呼ばれるようになったものであろうともいわれている。</li> </ul>	C-8
沖田	オキダ	<ul style="list-style-type: none"> <li>中嶺田部落の南にひろがる地域で、上沖・中沖・下沖・東沖・西沖の五区に分かれている。沖田は終戦前には窪い土地であったので、周囲の土地の水がここに集まり、ちょうど海の沖の方を眺めるような地域だということより呼び出されたであろう。夏季などは小魚がたくさん集まっていた。</li> <li>区画には畦を作らず棒を立てて境界を示し、田植えの時は箱舟を使った。終戦後は土地改良によって完全に排水が可能となり、乾田となっている。</li> </ul>	B-8
新屋	アラヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>生仁場から堂山に通ずる道の西側地域。</li> <li>新しい屋敷ができた所ではないかともいわれているが、あるいは、「菊川」の沿岸であり、たびたびの洪水によってできた荒野(アレノ)が誰ってアラヤといわれるようになったとも考えられる。</li> </ul>	B-8
井戸	イド	<ul style="list-style-type: none"> <li>堂山の東北に当たる地域。</li> <li>堀り抜き井戸があって、水を汲みあげたところといわれている。またはイド(井戸)はイデ(井出)の音が転じたものではないかともいわれている。あるいはイデは新しく移住してできた所をいうので、いわゆる新開地をいうのではないかと思われる。</li> </ul>	C-8
知良里	チラリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>中嶺田部落の南に当たる地域で、小藪のある付近・この地方で使われるチラリ(ちらりちらり見えるの意)という方言から起こった地名かもしれないといわれている。</li> </ul>	C-8
紺屋西	コーヤニシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄蔵屋敷の北側に当たる地域。</li> <li>紺屋屋敷の西側ということから呼ばれるようになった地名であろう。</li> </ul>	B-7



地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
諏訪	スワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>諏訪前の北側にある地域。</li> <li>諏訪神社のあった所ということから起こった地名であろう。</li> <li>諏訪神社は古くは南宮ともいった・上・下の二社から成り、上社は長野県諏訪市にあり、主祭神はタケミナカタトミノミコト、下社は諏訪郡下諏訪町にあり、主祭神はヤサカトメノミコト。いわゆる出雲系の神社で、本来大和朝廷の威力に容易に屈しなかった地方的な神格・創建年代は詳らかでない。</li> <li>この神社を中心とする諏訪信仰は全国的であり、その分社の数も非常に多くある。特殊の祭礼をもっている。</li> </ul>	B-7
白畑	シラハタ	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹野の小字名。1000 年程前に創建されたといわれる白畑堂のあった所ということから起こった地名であろうか。白畑の起こった理由は明らかでは無いが、或はシラ(シロ)は奇麗、ハタは端で谷津の終りということから起こった地名ではなからうか。白畑堂は城飼郡 36 か所霊場の第 2 番札所とされていったが現在はない。</li> <li>※城飼郡 36 か所霊場について</li> <li>古谷の東林寺を 1 番の振り出しとし、36 番の仏生寺を打ち止めとするものである。</li> </ul>	E-5
元海戸	モトガイト	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹野の小字名で、洞善寺の西側に当たる地域。</li> <li>洞善寺の入口(垣内)に当たる所ではなかったかと思われる。カイトのつく地名は各所に散見されているいろいろ解釈はある。ここでは、大槻文彦博士が大言海に述べている「カイトは垣内でカキツの音便転屋敷の意」とある通りで、「屋敷及び屋敷の周囲」の意に当たるものと思う。</li> <li>したがって、モトガイトは旧屋敷という意であろう。</li> </ul>	E-5
天白	テンパク	<ul style="list-style-type: none"> <li>後田の中の地字名。</li> <li>水害、干害などについて天神に祈願をした所ということから起こった地名か、あるいは天白神を祀ってある所ということから起こった地名であろう。</li> </ul>	D-7
橋戸	ハシド	<ul style="list-style-type: none"> <li>丹野公民館付近の小字名。</li> <li>橋戸は橋渡の書き変えられたものではなからうか。</li> <li>ここは南北交通の要路に当たっているところから起こった地名ではなからうか。</li> </ul>	D-6
古谷	フルヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>東地区の大字名。</li> <li>物部古(モノノベフルシ)という豪族が住んでいた所ということから起こった地名であろうといわれている。(総記篇・北地区篇)</li> <li>物部古という在地豪族の配下たちが住んでいたということから起こった地名といわれている。今もその住所が古屋敷(フルヤシキ)と称する地名が川上にある。(東地区篇)</li> </ul>	E-7
高太郎	タカタロー	<ul style="list-style-type: none"> <li>大字古谷の小字名。</li> <li>東林寺の裏から東北一帯にかけての山林地域。資料室の重要資料の一つ穀物貯蔵用(酒造用)の大瓶は、ここから出土したものである。</li> <li>タカタは高い所にある田、タローはタルで垂或は滝の意で高い所にある湿地ということから起こったろうとも考えられるが、次のようにも考えられる。</li> <li>タカは高い意、タローはタイラの変形タイロより生じたもので、山中などに見られる小平地の語といわれる。すなわちタカタローは高い所にある小平地という意であろう。</li> </ul>	D-7

地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
祭文屋敷	サイモンヤシキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>久保海戸の地字名。</li> <li>祭文が住んでいたということから起こった地名であろう。</li> <li>※祭文 祭文は祭文語りとも祭文読みともいい、民間を歌祭文を語り歩いて銭米を請うて歩いた旅芸人を呼んでいた。大正初期まで行われた娯楽の一種。</li> </ul>	—
石神	イシガミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>複田、立長の北側に続いている地域で、川上の小字名。</li> <li>石神の地名は全国に50程見られるといわれ、石の他に石棒、石剣などの石器時代の出土品を祭った石神信仰に基づく地名と思われる。</li> <li>石神はシャクジン、シャグジ、サグジなどと呼ばれている。</li> </ul>	D-8
八町	ハッチョー	<ul style="list-style-type: none"> <li>川上の小字名。</li> <li>政所、石神、紺屋前、鍛冶海戸などを総称する呼び名で広さより生じた地名であろう。</li> </ul>	—
政所	マンドコロ	<ul style="list-style-type: none"> <li>立長の北側に当たる地域。川上の小字名。</li> <li>マツリドコロが略化された語で、庄園の政庁のあった所を呼ぶ地名。</li> </ul>	C-8
赤土沢	アカンザー	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤土原の西斜面に位し、古谷の東、川上の東北に当たる広い地域で、赤土の小字名。赤土原の下にある沢ということから生じた地名であろうか。</li> </ul>	E-7
赤土原	アカツチバラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧小笠町分の牧ノ原では最南端の地域で、赤土の小字名。</li> <li>明治初年以來赤土住民が移住して開墾に努力したから生じた地名であろう。</li> </ul>	E-7
石神	イシガミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤土の小字名。</li> <li>シャクジン・シャグジ・サグジとも読み、石神井・社宮神とも書く。これは石に神霊がこもるといふ信仰から起こるもので、国民の一特徴ともいえるものである。</li> </ul>	C-8
高橋	タカハシ	<ul style="list-style-type: none"> <li>大昔には、この地方は海が入り込んでいたので、他地区との交通は高い橋を作って行っていたということから起こった地名であるといわれていた。</li> <li>しかし、遠江国風土記伝に依ると、高橋氏が住んで居たということも記録している。高橋の地名はこの高橋氏の姓より生じたものではないか。</li> </ul>	D-8
唐沢	カラサワ	<ul style="list-style-type: none"> <li>正林寺の東に当たる地域である。</li> <li>小高い所で、水がなくて、小石がゴロゴロしている河原で、澗沢より転じてカラサワとなり、唐沢の文字が当てられるようになったのではなかろうか。</li> </ul>	E-7
車坂	クルマザカ	<ul style="list-style-type: none"> <li>正林寺の庫裡の東、義忠の従臣達の墓がある台地。</li> <li>土地の人の話によると、この付近の材木を伐り出す時に車で運ぶために作った坂道だということから起こった地名だろうともいわれているが、たしかではない。</li> <li>クルマのつく地名は、久留間・車間・久留馬・来馬などと書かれ、全国の各地にみられる。</li> </ul>	E-7
磯部	イソベ	<ul style="list-style-type: none"> <li>正林寺付近一帯を呼ぶ地名。</li> <li>昔はこの辺りまで海岸が迫って居たが、その後海岸線の後退によって、現在のような地形を見せるようになり、その名残りとして呼ばれ出した地名であろう。</li> <li>「イソ」はアイヌ語でもイソといわれているようなので、アイヌ語から出ているかも知れない。</li> <li>奥磯部・中磯部などの地区がある。</li> </ul>	D-8

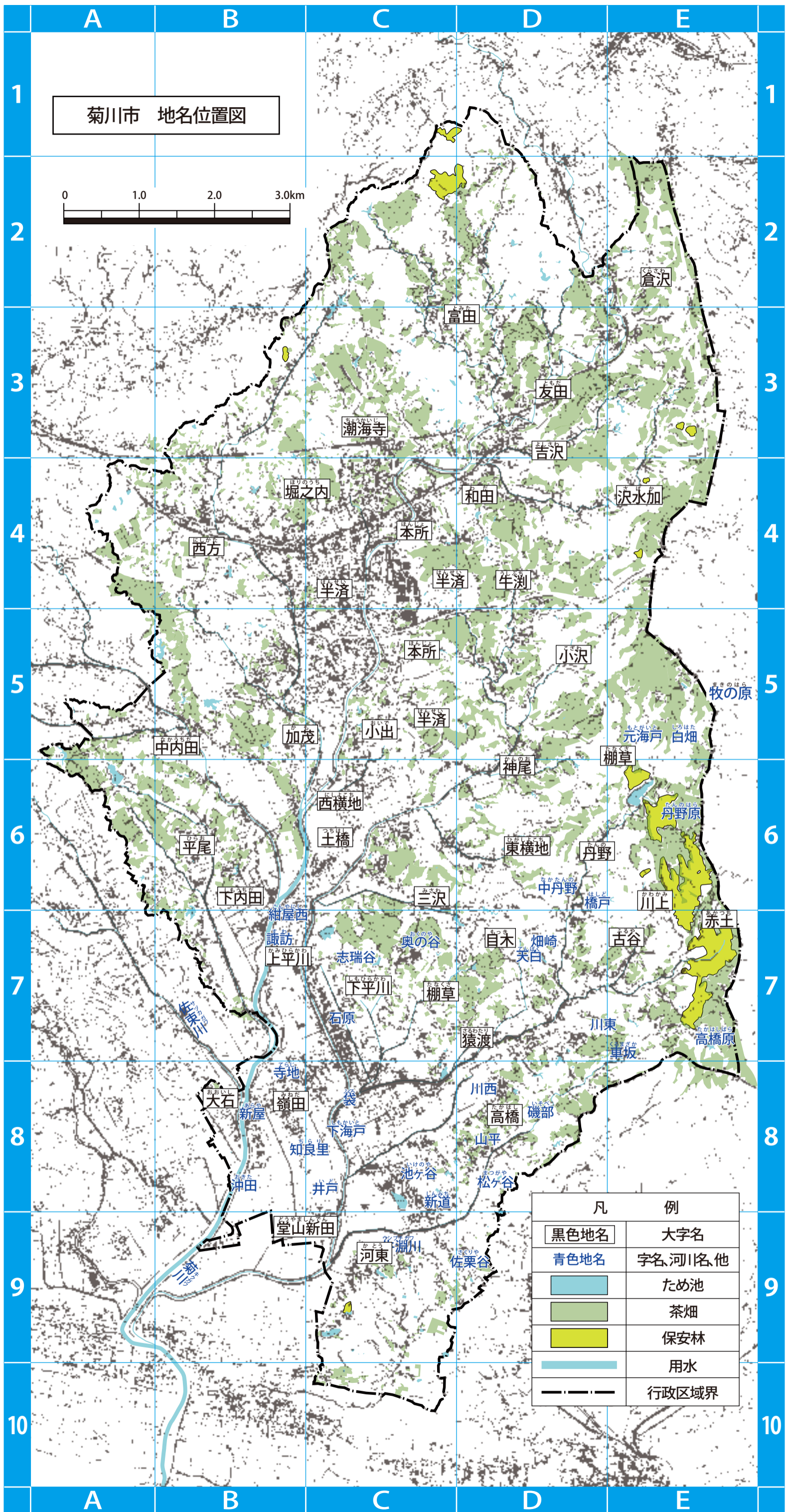
地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
大胡桃	オーグルミ	<ul style="list-style-type: none"> <li>今は大胡桃の文字が当てられているが、或は大曲水から出ている地名かも知れない。</li> <li>曲水(キョクスイ)の意には「山麓を曲り流れる川」のことをいい、また「曲水の宴」のこともいう。</li> <li>「曲水の宴」は、古代に朝廷で行われた年中行事の一つ。3月3日(桃の節句)に朝臣が曲水に臨んで、上流から流される杯が自分の前を過ぎてしまわないうちに詩歌を読んで、杯を取りあげて酒を飲み、終ってから別室で宴を張り披講したという中国に発した遊宴といわれる。</li> <li>曲水の曲は曲輪(クルワ)のようにクルと読まれ、水は水戸(ミト)・水無川(ミナシガワ)・水無月(ミナヅキ)のようにミと読まれるところから、クルミが出たかも知れない。そして、後になって曲水が今日のように胡桃と書かれたのかも知れない。この近くに舞台という地名が有ることから考えて「曲水の宴」より起こった地名と考えるのが妥当と思われる。</li> </ul>	D-8
松ヶ谷	マツガヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>高天神城戦の際に野賀岐山の先祖は、この戦火を逃れるために富士の根方に移住した。しばらくして戦火がおさまったので帰郷してみると、故郷は荒廢地と化して松の木なども生えて大きくなっていったところから起こった地名であろうといわれている。</li> </ul>	D-8
中山	ナカヤマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>一ノ井・上竹の西北に当たる地域。旧南<sup>みなみやま</sup>山裁縫女学校付近。</li> <li>土地の豪族中山氏の名前より起こった地名であろう。</li> </ul>	D-8
佐栗谷	サクリヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>この近くに大門という地名があるところから、坊の入口の大きい門に向かって左に有る庫裡<sup>くり</sup>ということから「左庫裡」と呼ばれて、それが「佐栗」と書き換えられたのではないかとされている。また、一説にはある地方の方言に「サクリ」は細く長く低い窪地をいうとのことであるが、いずれにせよ語源は明らかでない。</li> </ul>	D-9
愛宕山	アタゴヤマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>旧小笠町西の中の一部になっている。虚空蔵山<sup>こくぞう</sup>の真西に当たる地域。</li> <li>愛宕権現が祀ってあるところより起こった地名。</li> <li>愛宕神社は京都に本宮を置き、火伏せの神として崇敬されている。</li> </ul>	—
葦藪	ヨシヤブ	<ul style="list-style-type: none"> <li>南幼稚園のある所。西浦の一部になっている。</li> <li>昔は猪が出たといわれているほど深い荒地で、葦が藪のように生い茂っていたところより起こった地名であろう。</li> </ul>	C-8
西浦	ニシウラ	<ul style="list-style-type: none"> <li>宮田の一部になっている。南小学校の西に当たる地域。</li> <li>現在は土地改良によって堪水の恐れはないが、改良前は、降雨があれば高橋方面の水がたまる場所から起こった地名であろう。</li> </ul>	C-9
池ヶ谷	イケガー・イケガヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>谷の奥に池があるところから呼び出されるようになった地名と思われる。</li> <li>この池は三か所に分かれて、南側の池を奥池・北側の池を新池または下池(シタイケ)・東側の池を目土池(メツチイケ)と呼んでいる。</li> <li>今間にも三つ池というものがあるが、お大尽一家が入水し、果てたという伝説の池は今間の三つ池ではなく、この池である。(小笠町誌 P308 参照)</li> </ul>	C-8
奥の谷	オクノヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒガシダミの東に続く地域で、北地区の中では最も奥に位置する谷津。</li> <li>地形的な条件によって起こった地名であろうか。</li> </ul>	C-7

地名	ふりがな (発音表記)	由 来	地図番号
新道	シンミチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ロクセの北に続く地域。</li> <li>● 開墾(元禄以降の)によってできた道ということより呼ばれるようになった地名だろうと思われる。</li> </ul>	C-8
奥屋敷	オクヤシキ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 内谷田の中にある地字名で、栄林ヶ谷(エリガヤ)の一部。漢人一族の祖栄林が住んでいた屋敷の跡ということから起こった地名だろう。</li> </ul>	—
猿田の谷	サルタノヤ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 佐栗谷の一部に含まれている。</li> <li>● サル(猿)のつく地名は全国にかなり多くある。しかし、これが全部猿に関係しているというのではなく、(1)崖崩れの意味(2)旅芸人に因む意味(3)アイヌ語の湿原の意味などから起こっているものもある。</li> <li>● ここでは(1)よりもむしろ(3)の湿地ということから呼ばれるようになったらうと思われる。</li> </ul>	—
春日	カスガ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● カスガという地名は、奈良県のほか全国各地にあるが、アイヌ語のカスカ(徒渉する岸)より生じたことばではないかといわれている。</li> <li>● スカは「洲処」でアスカ・カスガと共に砂礫地を意味している。</li> </ul>	—

資料：小笠町地名語源解説 総記篇・北地区篇、東地区編、南地区編

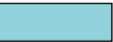




(編集：小笠町郷土研究会民俗部、発行：小笠町教育委員会) ※菊川町・小笠町合併に伴い一部改

この解説書の作成のための研究は小笠町郷土研究会民俗部を中心とする同会の会員有志により行い、研究の進行及び原稿の整理とりまとめは、郷土研究事務局が担当した。



菊川市 地名位置図



凡	例
黑色地名	大字名
青色地名	字名、河川名、他
	ため池
	茶畑
	保安林
	用水
	行政区境界

← 小笠山

## 2-(6) 方言

私たちが使い馴れた言葉には、他の地方では通用しないものが多いです。

この地方で生まれた古代語で、そのまま残されていて長い間に変化したもの、また抑揚(アクセント)が変化して他の地方で通用しなくなったものもあります。本市内においてさえ、各集落においてアクセントの違いや発音の一部が変わるものがあるのです。

この地方は、東は大井川、西は小笠山塊にさえぎられ、東海道と海岸線からも距離があるため、古代よりの言葉を多く残し、長い間に変化しつつ使われ続けられたものがあります。江戸時代、掛川、相良、横須賀の城下町ともほど遠くて、藩主の交代による日常語への影響が少なかったと考えられます。

### □ 方言の例

資料：おがさ風土記、郷土方言詠言葉集（菊川編）

#### ■ 発音が、標準語と異なる言葉

- 橋は「はし」で平板型、箸は「はし」で頭高型、雲は「くも」で平板型、蜘蛛は「くも」で頭高型。

#### ■ 主語を僅かな抑揚により肯定と否定とに分けるもの

- 「行かまい」は、肯定で「行きましょう」で、否定で「行かない」。
- 「食べまい」は肯定で「食べましょう」で、否定で「食べない」。
- 「行かすか」、「食べすか」も肯定と否定の両方に使われる。

#### ■ 同じ言葉で意味の異なるもの

- やりからかす=夢中でやっている（進行型）と、やりっ放しにする（不始末）。

#### ■ アイヌ語とよく似た、この地方にある言葉

アイヌ語	この地方の言葉	アイヌ語	この地方の言葉
イモ	芋	ウエン	悪い（おえん）
メシ	飯	ニヤケ	庭
カム	神（祝詞でカム）	ザランバ	さらば

#### ■ 食事の慣習と呼び方

- 農家では、昭和の初め頃までは食事は普通4回で、農繁期は5回～6回取ることもありました。

慣習上の呼び方	説明	慣習上の呼び方	説明
オチャノコ	午前六時頃の朝飯	ユウハン	夕飯
ゴゼン	午前十時頃の食事	オヒルヂヤ	正午の簡単な食事(農繁期)
オチャヅケ	午後二時の食事	ヤシヨク	夜業の時のみ

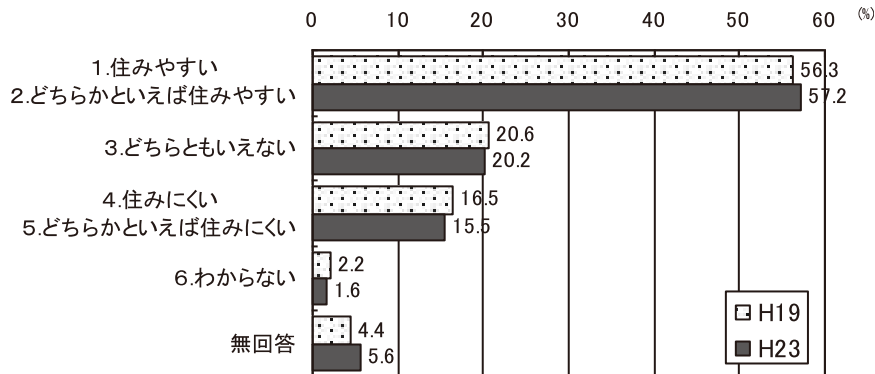
#### ■ その他の方言

方言	標準語または意義	方言	標準語または意義
あがと	かかと	おいはん	夕飯
いじくじ	いじけたさま	かんちよろ	ひ弱
えんのころ	子犬	すつとば(か)す	突っ走る
へさえる	押さえる	ほのく	ほどく

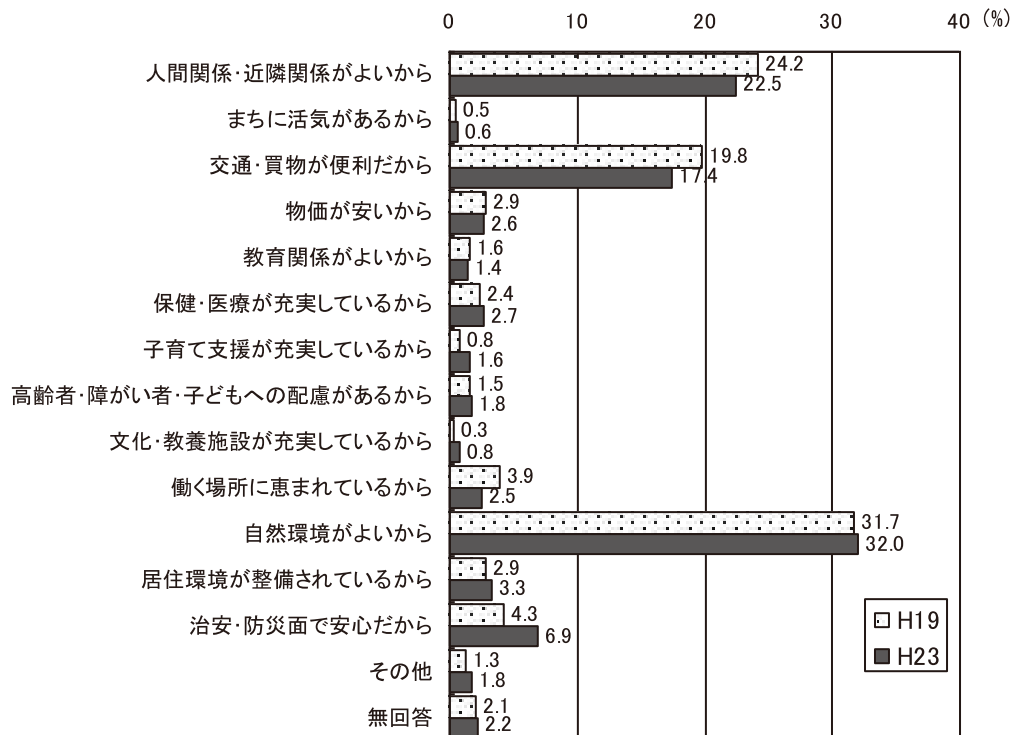
### ③ 菊川市総合計画・行政評価 市民アンケート調査結果

平成 22 年 5 月に菊川市総合計画に関連して実施されたアンケートより、文化振興に関わりが深い項目について抜粋しました。

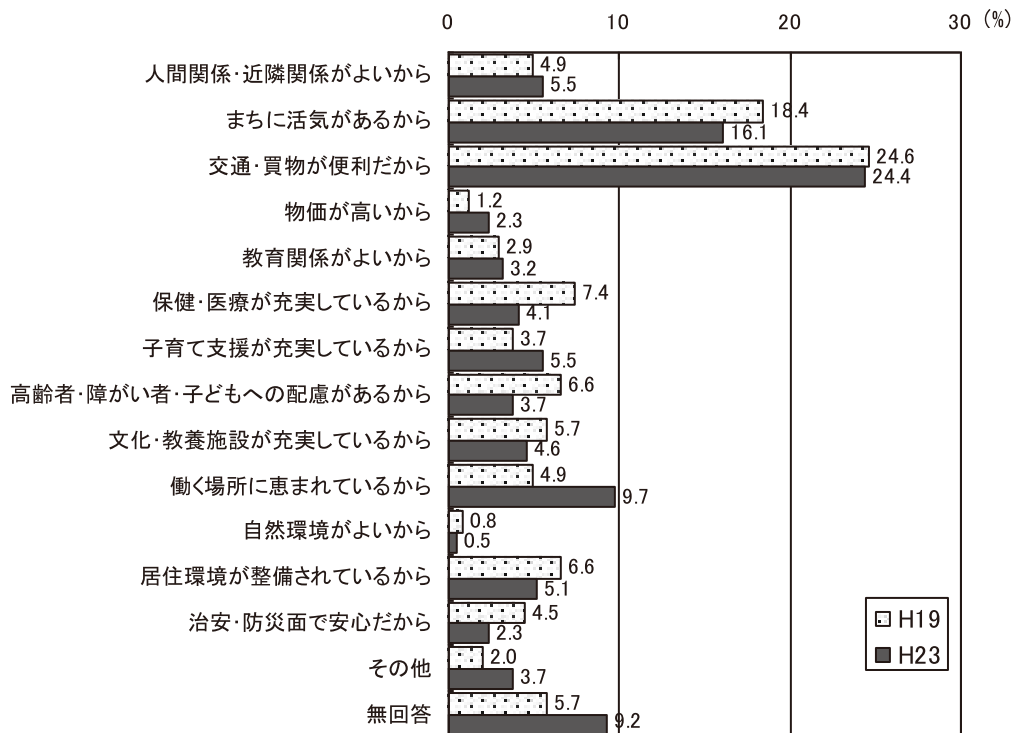
■ 菊川市は住みやすいまちだと感じていますか。



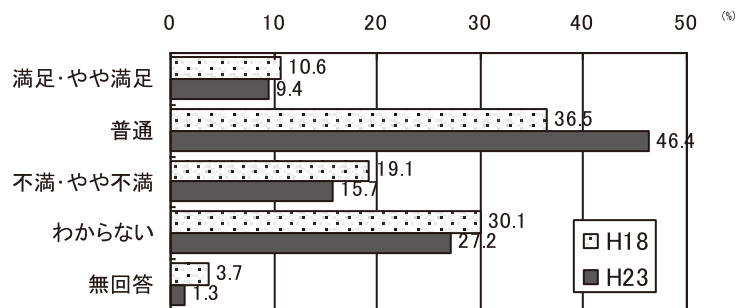
■ 「住みやすさ」で1または2と答えた方 それほどの理由からですか。(2つまで)



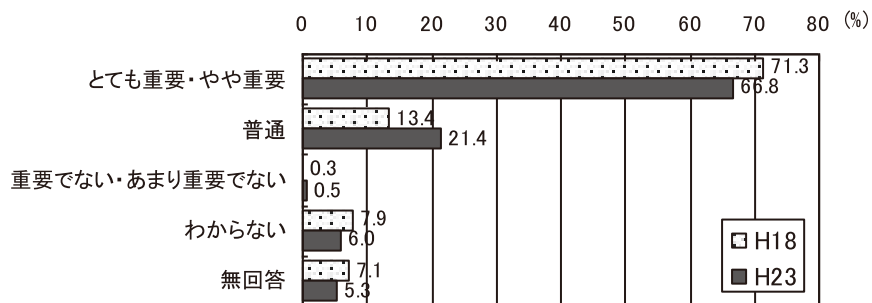
- 「住みやすさ」で4または5と答えた方 それほどの理由からですか。  
(2つまで)



- 満足度 子どもの知・徳・体に優れた人間形成を図るための学校教育が実施されている。

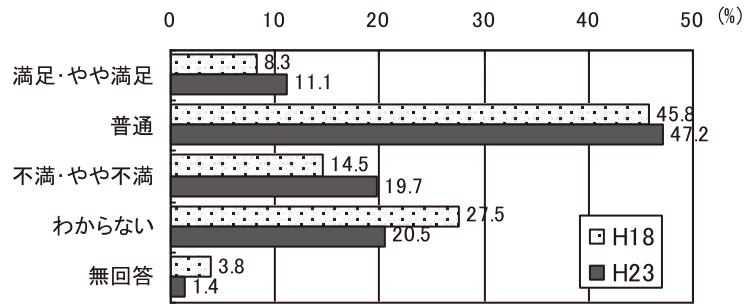


- 重要度 子どもの知・徳・体に優れた人間形成を図るための学校教育が実施されている。

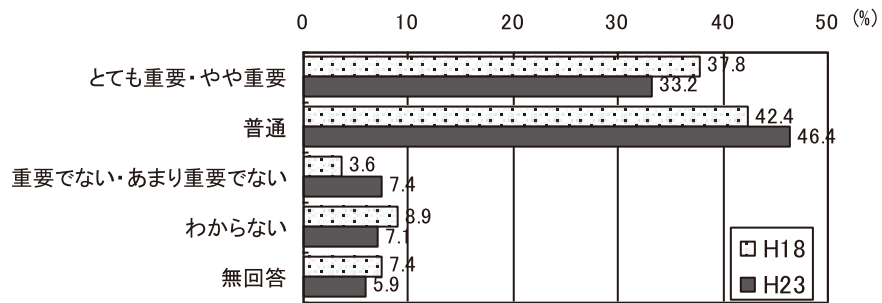




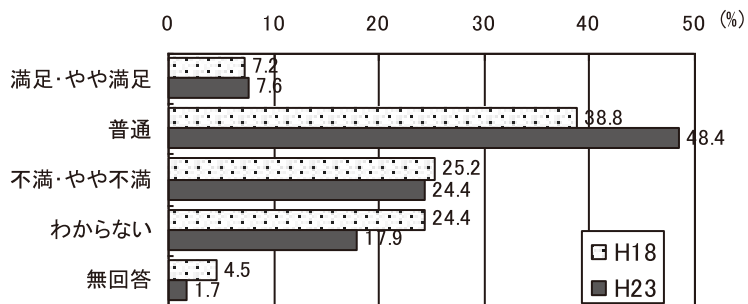
■ 満足度 「歴史・文化資産が尊重され生かされているまち」だと思う。



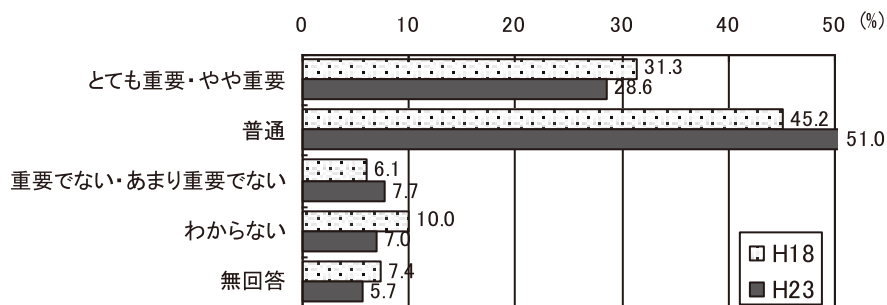
■ 重要度 「歴史・文化資産が尊重され生かされているまち」だと思う。



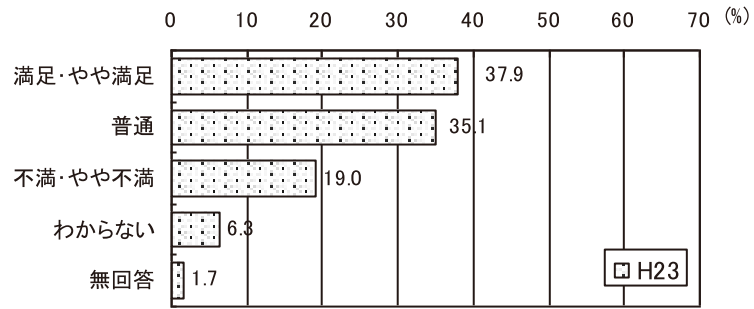
■ 満足度 「市民が気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思う。



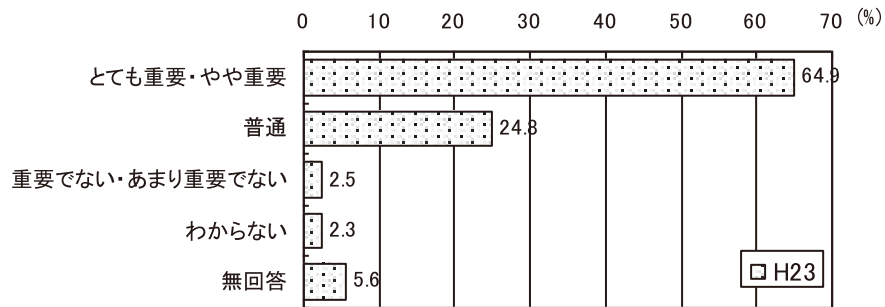
■ 重要度 「市民が気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思う。



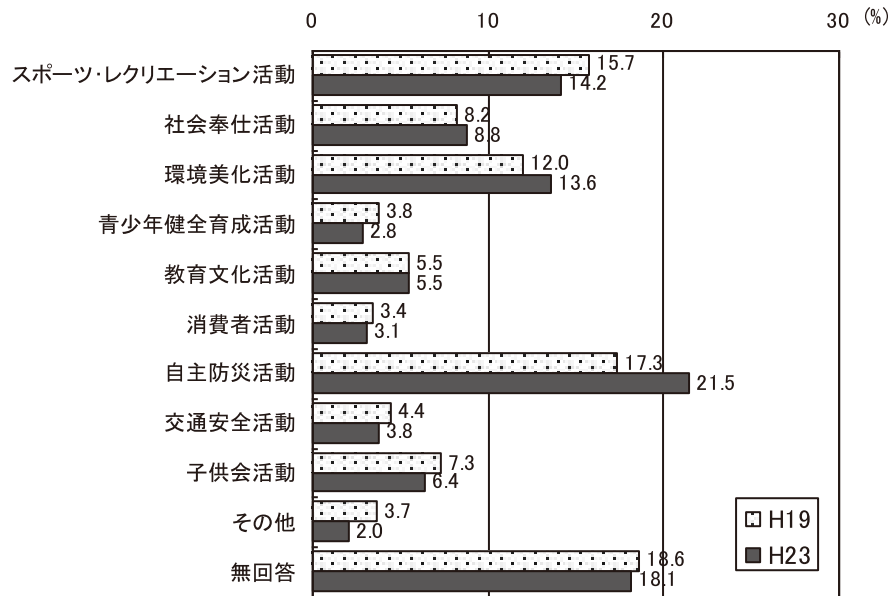
■ 満足度 「魅力ある菊川茶が生産されているまち」 だと思う。



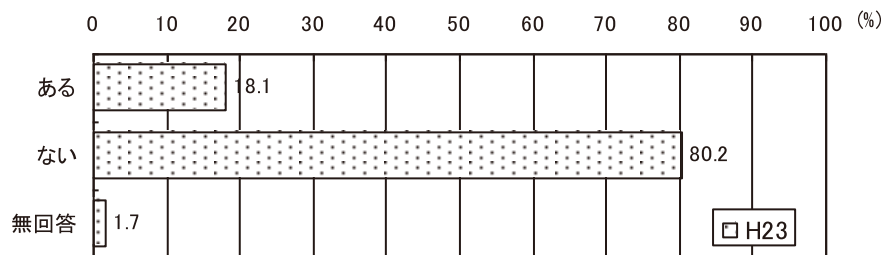
■ 重要度 「魅力ある菊川茶が生産されているまち」 だと思う。



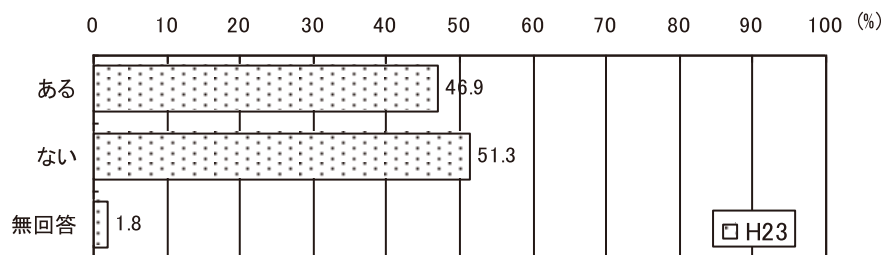
■ あなたは、今どのようなまちづくり活動に参加していますか。(該当するもの全て)



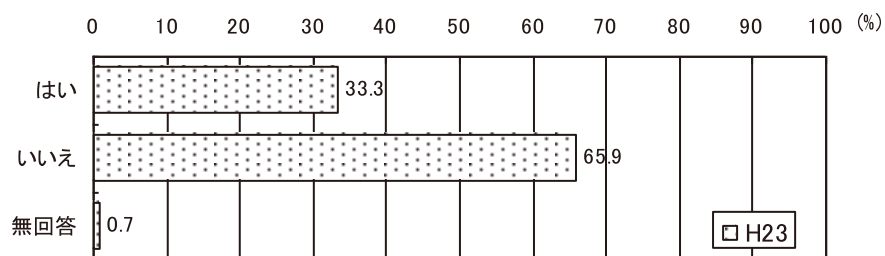
■ あなたは、年に一回以上芸術や文化の活動を行いましたか。



■ あなたは、年に一回以上芸術や文化の鑑賞を行いましたか。



■ あなたは、週に1回以上スポーツに取り組んでいますか。



# 4 市の指標

「市町の指標（平成23年度版）」によると、静岡県のなかで、本市は「一世帯あたりの人員が多い」、「一人暮らしの高齢者が少ない」、「人口千人当たりの図書館蔵書冊数が多い」ことが分かる。

No	市町村名	可住地面積 面積割合 (%)	総面積 (km <sup>2</sup> )	外国人 比率 (%)	住民基本 台帳人口 (人)	人口増加率 増加率 (%)	普通出生率 人口千人 当たり (人)	一世帯当 たり世帯 人員 (人)	一人暮らし 高齢者 率 (%)	離婚率 人口千人 当たり (件)	図書館蔵書冊数 人口千人 当たり (冊)	蔵書冊数 (冊)
1	静岡市	23.7	1,411.85	1.2	715,637	-1.0	8.1	2.6	19.6	1.9	3,148.1	2,252,899
2	浜松市	33.6	1,558.04	3.3	792,173	-0.4	9.0	2.7	14.6	1.8	2,732.9	2,164,901
3	沼津市	49.4	187.12	1.8	206,631	-2.7	7.3	2.5	20.8	2.3	2,491.5	514,816
4	熱海市	36.9	61.61	1.0	39,828	-3.9	4.3	2.0	31.7	2.0	4,429.1	176,401
5	三島市	61.7	62.13	1.2	111,773	-0.4	8.4	2.5	20.7	1.9	3,526.6	394,177
6	富士宮市	34.2	388.99	1.3	134,083	0.4	8.4	2.8	14.5	2.3	4,030.5	540,419
7	伊東市	43.9	124.13	0.6	73,631	-1.4	5.9	2.3	19.9	2.3	2,259.6	166,378
8	島田市	33.7	315.88	1.1	101,756	-1.8	8.1	3.0	12.0	1.3	3,649.8	371,384
9	富士市	50.4	245.02	1.9	256,316	0.3	8.5	2.8	14.2	2.4	3,940.0	1,009,891
10	磐田市	83.3	164.08	4.2	166,456	-1.3	8.7	2.8	11.1	1.4	4,622.0	769,357
11	焼津市	93.9	70.55	2.2	143,442	0.1	8.8	2.9	13.9	1.9	2,379.8	341,362
12	掛川市	57.1	265.63	3.6	115,361	-1.3	9.4	3.0	10.0	1.4	4,771.4	550,439
13	藤枝市	52.2	194.03	1.0	143,428	0.1	8.1	2.9	13.0	1.6	3,139.0	450,225
14	御殿場市	43.4	194.63	2.5	87,553	3.6	10.3	2.8	13.3	2.2	3,063.6	268,228
15	袋井市	79.3	108.56	4.0	83,398	2.2	10.3	2.9	10.5	1.8	3,289.2	274,316
16	下田市	24.0	104.70	0.8	24,883	-5.8	6.0	2.3	24.8	1.6	3,615.1	89,954
17	裾野市	36.5	138.39	1.6	53,395	2.8	12.0	2.6	6.3	2.3	3,608.3	192,666
18	湖西市	77.0	86.65	5.4	58,931	-1.5	8.5	2.8	10.8	1.7	4,827.9	284,513
19	伊豆市	17.5	363.97	0.6	34,820	-6.6	4.7	2.7	16.6	1.6	4,456.1	155,163
20	御前崎市	75.0	65.86	3.3	34,540	-1.6	9.4	3.0	8.6	2.3	6,952.4	240,135
21	菊川市	76.2	94.24	6.9	45,302	-1.0	9.2	3.0	5.8	1.6	5,178.6	234,599
22	伊豆の国市	44.8	94.71	0.9	49,805	-1.5	6.7	2.6	17.3	2.0	4,201.7	209,266
23	牧之原市	70.2	111.68	2.9	49,071	-3.2	7.9	3.1	6.6	1.7	1,065.9	52,306
24	東伊豆町	25.1	77.83	0.8	14,081	-7.3	4.5	2.4	24.6	1.6	7,176.3	101,050
25	河津町	17.1	100.79	0.4	8,102	-3.7	7.3	2.6	21.7	2.0	3,287.5	26,635
26	南伊豆町	22.4	110.59	0.5	9,496	-4.9	5.4	2.6	20.9	1.9	8,310.9	78,920
27	松崎町	15.7	85.23	0.4	7,934	-5.6	3.9	2.5	13.2	1.4	4,128.3	32,754
28	西伊豆町	10.9	105.52	1.1	9,688	-8.7	4.0	2.4	19.9	1.4	2,900.4	28,041
29	函南町	44.8	65.13	0.7	38,537	-0.6	8.2	2.8	16.8	2.4	1,178.8	45,429
30	清水町	89.8	8.84	3.0	31,733	1.1	9.6	2.7	9.9	2.3	2,127.6	67,516
31	長泉町	58.9	26.51	1.0	40,919	5.3	12.2	2.6	16.2	1.9	3,353.0	137,200
32	小山町	32.6	136.13	0.9	20,403	-4.0	7.7	3.2	10.0	1.8	5,060.7	103,253
33	吉田町	95.0	20.84	3.2	29,542	4.1	10.5	2.9	8.3	2.0	3,826.2	113,034
34	川根本町	5.8	496.72	0.8	8,334	-10.2	4.7	2.7	13.6	1.2	1,339.7	11,165
35	森町	28.7	133.84	1.1	19,839	-4.1	7.6	3.2	9.4	1.7	3,861.1	76,600
静岡県計		35.7	7,780.42	2.2	3,760,801	-0.7	8.5	2.7	15.7	1.9	3,330.5	12,525,392
菊川市の順位		7	-	1	-	15	9	4	35	7	4	-

資料：市町の指標（平成23年度版、編集・出版：静岡県経営管理部自治局・静岡県都市自治振興協会・静岡県町村自治振興協会）

# 菊川市文化振興計画

平成24年6月

発行 菊川市

編集 菊川市 教育文化部 社会教育課  
〒437-1514 静岡県菊川市下平川6225

電話 0537-73-1114